下ノ部

二

一　[illegible]　行恒家集より　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

式部大輔道成、　肥後守[illegible]二奉物よりあり肥後

道季　　寺八系圖にあり

常陸守[illegible]

一　[illegible]

九曜文庫

と給ひ元の通成よりぞ所事と爰ふく事
あるべしと
一又あれを　通成も事へ所事をすべし人と執ぜん
（みて物をもいとさうるもの
一大武所をうへよそれば　此脇いと大身ぐ疫
り通成ぐ又ものもてとハ武ア大嫡ぐるも
所事大屋とをそ絶てうべし
一通成ぐあもと　所事をうヤ上もらぶまるみてれ
人をみて物とヤセ
一ぎうりさうもや　所事ぐもみて物とせ
ものて　此氣をもくふ樋ものヤうると浪

一此事　所事をうおみてとくの絶ぶうもと
一さ物の数ア　あわうみをれうし事も
源氏文のうを出ものとある
一四文　あうもいをうしたうふいあるも
堀川屋ア上と源氏文の法毋と法ものうも
つのよア法服の大屋れ法むとあの中文まうも
絶ひく付め義絶へもし源氏ア文のあうへもつ
びぶいんもいうぐうもあうんぶうう
一うと場の　法うも屋後のみアあ嫡れるれへ
まさうで為ぐ為ぐ為ぐ　ちまあうんん事

一帝人　女二宮とさき宮へあづけ給はんとも
一うつこまつる　はあらり　五条あり　御はらからふ
この勅宣をうつこまつる中あづけ　かのはんぬとハ
さき宮のうひしく思りぐと大度のんし
一まゐらつるも　大度の年まゐ法ゆとも
うくはずとは天子ぬはんぬ勅宣ちくまつる
一ムまつるも　ゆるせられぬ　て不許とゆ
ぐ法門ハ法とちりさき宮のうるぞこうんす
ムまぬはんゆまくく歩欲うまゐ法ゆとも
一えれうるとまさらて　世のうひれはんぬぐ　ちくゆる

又えいゆひ法ぐとさき宮ハはんゆ　ゆるゆうう
うく狭衣ぬ初也

一さて大宮
　　　　　　　　　　　　　　　後式部卿宮
　　　　　　　　　　　　　　　

ゆゑ行ふゆへ大ゑびんちゝとゝろんとゝも大ゑゝと
ハ宮大ゑゝも

一ゐゝ殿ゝゝ　大殿の平人なゝるゝ汁みゝそあ
ましと稱て常れは女を得ゝまる事ゝゝとも中ゝく
女二ゑゝの法も未ゝゝゝんゝも

一ゝゝゝゝべゝゝん　さゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らめゝく女二ゑゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ゝゝゝゝ　大殿の法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゑゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一我ゝゝゝ　我ゝゝハさゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

式ゝゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一さゝゝゝ　女二ゑゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ゝゝゝゝ　女二の法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ゑゝの　后乃上へまゐらせ法ゝゝゝゝゝゝゝゝ

一中務ゝゝ　ゝ拾　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一大將乃ゝゝゝハ弟ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ゝゝゝゝゝゝ　さゑ乃法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝ物をあぐりての河くし

一寧樹　中務の女房の姫君めのと一巻よあやめ
の帯をさ女へなりしんぞうひゝあやめの
ゑもし清也

一大ゑの物もゝまさあ　うへよまいり給へる法師ども
まさ人（祇候）ゝ中さんずして物をもし　ゝ字ゑ屋
うか　女二のゑ北清乳母めのと　いざとゝ伺ひ
ぞ〻ゝ也ゝ

一ものいひ侍る人　女房ゑ屋ゑ北丁へ侍へとゝ中
さどもゝゝねり給へ丁へ侍ものも女二
ゑ八引給ひ零とやゝて物みて外へ給へるや

うぐひすなど掃部へ給へ給へ給ひんまゝ物
物ゝさとも也

一みものと　北簾物ゝ
一かの北ゝ　女二の北みゝ侍べし
一ものふゝり　中ゝ物めのもきゝのもゝらん
とも也分の代みと勅云物ゝ北ゝ給へ給へ給へ
又いのもゝ物ゝ　さゝも　さゝ奇也
一ゝゝやまゝ也　さゝとゝ物ゝ物ゝ
ひゝゝさとも也　女二ゑ北
一ゝゝゝゝゝ　有し　ゝ
一かの物ゝの　先の代ゝ也物ゝ

あのもしきちるへ
一ふみぐれ　若葉哉　引
松ふるの若のこぐれて物をもとめそ　源氏
物ゝうよあるなり也
一たゝえの法ゝ歳の女房の法ゝまゝさ
ゝ又みてもやうのゝゝれどゝ人ゝ侍るゝてやさん
とてやいひちゝもあ也
一ふんのゝゝ　おゝ者ちゝ死んをさけゝゝどゝさ女の
紙也
一きにうとまゝ　さ夜の衣を女ゝゝゝ
一ゝゝゝゝれゝう　女ゝゝと云ゝどゝてゝゝ死も

一むゝの八潘　源氏ゝのゝいゝ歳ゝゝ行ゝゝゝ
考ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝのゝ　引ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一又ゝゝゝ　女ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一たとへ　はるかのことはゆゝしき　名謂

一ふるき歌の中　葛城一云ひとことぬし　大神　申して　云

自酒醐　歌の詞　上下畧　宮橋とゝ

用ることはゝ　なれどもるくわさんかもゝ　絶る

歌もとゝ　なべし

一はるかの歌　ことゝしくいんろうぐんとも

一ふる歌　くも　いうべき　ゆへあやまり

しるすこと　ふるとも　やまとゝひうそもぐさん

ものをとも

一ふるの　すがもも　面白　須也　むうしも　歌の名

用あること　歌

一　　　

[illegible]

一はるばるとたづねてこれまで　引て我もとの人なれば
ゆきうまのあはれなる　さぞ乃うらみてさぞ後乃うあり
一おなじうまをちらぬ　さぞ乃うらみてさぞ後乃うあり
あべし　ゆづりうるまたのうらにたつるまつぶら
一ゆづりうり　たて　ゆづりの
人はこれをとりてとりて
引　おなじ　ゆまも見てしらゆづりのうらかうり

さしのるやまとまるこ
一ゆづりうねを中ゆく　さぞ乃うれあり
一あまでん　女乃の話
一こうはきん　中納言ハ大炊乃めとのつうそも酒
國へ大炊の乳母ハ下りしやも　狭れ乳母
一ゆづりまんこ乃　引　来勘
一末のうら　来勘　叱ゆくハくあづるのその手
めて叶ひ母宮のよるひさやうあづる
てあるとこんつや
一ゆづりこ乃　安乃ハ
しへ行つるし

八十人食を特つ時は五二義を法は五二心を備へ

一文の　女二文を後文は清濁にてさらべ人さ

も宮さとの中納言の御也

一外通　紙乃如乃対面のうへ　硯をもちて

也乃女人又感乃文を書くるやう也

一あめの降る　女二文へ濁雑の法あるべし

一とうとうの乃法　文を見れば法を見人をあんち所ら

形可易

一文を見ては中しく　女二文へ八まつ〳〵せらるもうひ

あらしとも也

一あづま乃　女二文はらんかたにあらべ形ばかへとも也

一度〳〵しとうり　さ乃乃何也　女二文を書もちろ〳〵見也

あまの人也

一うらうらして　一時の也　やまを乃法はんとうまつ〳〵

野く月ありしてはうぐとも也

一時こゞ　はらんしるものをとも也

一扇　扇を形乃うち　このびてはまひ法へ乃月乃ひさ

えさまの法をよう法へうさ乃の者し

一男乃たう紙　さ文のうべ乃〳〵さんかゝちるべし

一はう文のうち　中納言　曇とへ〳〵くもおゝ

しなさまうん也

一文べまつて　女二乃法の者〳〵さとあらしうべ文

[illegible]

一中納言殿　女二の宮様御事もの語り

一おまつを給ふ事　引出もの[illegible]

一[illegible]　さて八さ[illegible]

一たゞさるのやと　きぬ[illegible]

一おもせもせもうくるうし四月

一うゞと　東海のみち[illegible]

一[illegible]

一[illegible]　引わゞ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一雲の引文書ハ平氏ハ物そ[illegible]ふうの
[illegible]人[illegible]
一[illegible]　通[illegible]
此[illegible]　源氏[illegible]
一[illegible]ハ　源氏[illegible]　私　女[illegible]
[illegible]
一[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
一[illegible]ハ[illegible]　源氏[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]

[illegible]
一[illegible]　女二の[illegible]
[illegible]
一[illegible]　女二[illegible]
[illegible]
一人[illegible]　猫[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

一あたいいろにもべき　あたるぬ後合めり　古者の品
多べし
一そんぐう　禁中　行幸の時乃ぐう　数遊也
一わらべ　せきひそく　女二へ　大きの乃わらべ也　あし
一せきういとき　女二も　我身の所懐姫と知る
もの也
一いそやいとき　大武の乳母　妹内
侍のすけ　陸奥乃守　久もと　ちち
らてよくんと　ものひ給　所とと　内侍ヤ也
　　　

一大宮の　大宮乃古懐姫と出でものの乳母なるべし思
あぶ　して問ふも笑しくらるもの
一あべくの　月乃さはりも忘れてれるもたるすこし
一えりはれあゆく　故ゆ引二宴
一吹もらぬ　くれもの　女二宮奇し
一まんめれ　きりうらられとハ浮級也
一うれたびめ　えめいの級なり
一おとろ表たがら　ひあがくハ浮くといふ
一さたゆもを　女二宮とぞ出でぐちなりんとも也
一とのゝ引　浅茅生　あさちふのもとく　藤衣　ものもく思ふれど
あまりてあるべうんの思ひき

一みぐれる家扇　ゆ
一人　きまて　くれもの
一みくらも　俗　ぞよみくらも
一人くら　ゆくも出ぬ　月を　時　ゆれ　ゆる
きびどもも
一雲井　まてゆひ乃ぐちん　人ま弱ハさ安ふ
ゆくうとも　大宮の奇　三巻乃末ゆも故宮
の奇と　きうちんハ下初也
一はれ　さ安れつまくして
也天宮の女二をまつ　ゆくせんもうゆひ
一ものくゆ　女二の古産とくゆ

一妨ましみやうちさ衣ちれたる衣きちゐく
をはおりうちもち　反上人ちとあしらもちるべし
伊勢物語源氏　唐の故事引用
一たぐふ不ちれうきて　ふるれ袖ゐくさ衣乃ぬき
しまはきたるさらもち
一はゆうう　ちつ美　狭衣のあさちれ袖ゐしるんを
一つそや　中納言ぐちとなりひて乳母わぐとき
衣りハ不知とつもちとうぎめ紙ちとひるも
一ちれての　引歌よとちみ
一きにかんめて　はは延ぎ紙乃んと思ちう合りて今
まで法ちる今下とや

一姫衣さん　法門乃法ん中今一度法門へ見くちもん
しるちぐはちめてん　くちぐまつもちとも
一ちいつまて　さ衣の法印也懐姫とさうしん
る軍いくくのもくハせもし或ものをもも
一きに多れほどちゐ　ちりのちくちぐきさい
らもちるぐりに加ちも
一ものほうゐも　さ衣をつとひ弱ちあとゆそゆう
ぐやも
一まつて内ちと　ちりそむきゆちるちにちづき
さう紙ちゐぎに思ちんと思ひちもその法ど
も時くちさゆうう中納言ちぐひちんば思

[illegible]

一とのれはしらく　引手事歟

一ちのうきは　大文字くちの奥してちらくだらとも

一ゆくすえは　信云よつゝり　叱云厚顔無恥

一あまのうらてふ　我うら大文字なく如行ひ[illegible]

ふつきあきハ世ゝ[illegible]ずも姫文の法ハ[illegible]べし

ひしりかちるんきゆ[illegible]ありハさ云へちるびきゞ[illegible]れ

ほしめもも

一まゞつ　ちるでハ　[illegible]実あるもし又ゆめ[illegible]

ちもとゝば法ゞ或[illegible]ゆ行る歌

一ちもひろちどり　尾よ如行ひんるゆを奏して

[illegible]

一ふゝちく　法ゞ此尾髪のさゝるもやしるゝ

ゆにしてちゆ[illegible]ちをゆのちをゆのまをゆ

らゞ先ちゆんとも

一あゞちちるべし　源氏文故也　ちゆるゆるひ

ちばも源氏文ゆるゆちるへし

一ちをその月　法ゞ納云枕草子　源氏物語引歌

一ちゆひをもゆけ　ちゞゆちも

一我ほゞ法ゞ　我ほゞ法ゞ物ゆひハせ

とさ衣ん〳〵

一五藻うたあま　尼へ通　あのうら

一ほうぐく　信ぐわ　ぐくとあるふとつら

一ふ〳〵歳ふ三　さ衣ふれあ

一山せこのかれ　古物ふるうちふるへし

一あ寄まさや。ひろだうやぢて移ふれとも

あろびあひみろかふあひふくろ　源氏字治ぢを

一ほうぐし　源氏ふあひしさふ上乃芋ふれ

南の雨ぎせあ〳〵ふろげと雨ふりふう

んとも天ふの雨ふにふふれだも

一雪ま絵ぢ　源氏物ぢの巻をめくり

一ほれとふう　むう〳〵ひふあるべし和巻へ歌年

一ひまてく　清ぢとあふんとん清ふんとふんも

櫻ハ冨ちれ山もとあふんとん清ふんとふんも

一雪山ふ　むもぢの神いぢ

一うえわふ　狭衣ふれふ

一ちむ平等大舎　法花経乃美ふも

一ふふうもいまは　ふあるぢふ断也　口傳ありさ衣

中はりひもあひ

一あぐさものふれふ　ひとのんも

一雪いふう　源氏ふハ和もとさぢとあう

一ふてちやまも　さ衣の法毎去ふふの法ふをも

てちやまさせたへくらも

一そのさ国ゆてあんくとゆくりおぼくれど　さ衣の浦の海

一いとあるまじき歳　こまてハ何ちるべし　源氏の文

れ法貝鬼ハあるまじきさるみと思ふ桜衣々ハ

ハまうてとら結ゆへあるまじ歳ちみと源氏文の

言べしと母文の詠みめも

一わくらを　母文し

一をくへ　桜衣ち源氏文へをくへとて春文よ

ゆれ法文をとさ衣ちを詠めも

一ゆくぶうちめぶ　めすにさ衣ちををくへとて

一多のめたくいくく世　濁墨をせたさのめて文しき

とのまこ文乃法華ちるべし

一ぶういとをくうちをさ詠へだ　光母文の詠

河也　まうてくうさ衣也　の詠ワすまどさらとて

をくへやさでハとて

一末の世と　濁をまてちぐあ所ごとくちるまる詠

ハくのくぐくとも　源氏文の代りさ衣よめり

一そよちくうり　さ衣奇し　小藻ハさ衣乃法ちり

おてくまこ文乃法ちるをくまを詠へり

一みぐる歳　引　那波浮乃ぐ光苦乃ちり林まるあと

てちの世歳ちてよとや

一ちうちうのあしもとうづへきあるこれだこととに美濃
源氏美ゆへい屋一ちきとおつりを河し
一とりうをせいひちうづくり　めぶのとちうる物くな
とそいづ　古笑ぞうるとてまつりせ行くりあさ
ぞれ元　さ衣あり　めすまくちるとこうへだ
我をハさ衣也
一えさぶくり　もくちどちうぶく事あるまぶ支
ちうやも
一うちそぞ元　源氏文あし
一列やり　さ衣ハあまでもの世ちとあるゆく
一いそや　源氏文笑ぞ　を衣とも

一さもの　ぶくだ山縁山ちげ山ちぎくれぶく男ひ入
うりハちりくぶをとり　された大屋ハれんちぶぞ
輝くまもとも
一左めそ　の志ゆ　ゆんぶ接ハ伊せんつける男ハ女
先くそ人ハみまくちれ
一まいのんくらを人ハ　大武ハ乳母妹ちるに
如ともへあとも
一正月ち　上洛して熊谷弁ハる中実くちぶ
一めすに面白事ちるとやすつゆでよ三月ちお
ゆを如ち衣とやす　沼八ちとえくくハるで
うちあちくうあさに物ちるとも

一源氏の　龍門井　元の股　延喜あしだ
元乃さ　海ちゝん　ゝと思ふ也
一ゆくへも　奇ふる　元ゝ　ゝ　ちるべし
ゝとせよ　白ゝ　ゝ　ゝ
一きゝ乃ほれ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
みはゝ　ゝ　ゝ
一いゝ　ゝ　龍門井　元の股也　我をいけて
みんと思ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ゝふ水　あふぎ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　奇　狭衣　ゝ　ゝ
一あさ　ゝ　狭衣奇也　源氏乃ざゝん人ハ

一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　源氏の元ゆゝ　ゝ　ゝ
りひろ　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
乃ん　ゝ　ゝ
一源門奇　狭衣　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　女三の　ゝ　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一ある人が引世中ふあるまゝうちを思ふ人の有まゝ
ありくこと如にけるぶ
一ものもの又女三とき衣へと思ひたるべし
一大将のうち　さ衣のうちをせ〜とめ〜出されてを
一むさしの〜引奇てを動ゆるされんるべし
一神の中まや引奇赤動　私動ちなあるざりし神の
中まやなをん我ちをまゝおのるれんちまろ
一りとらるしくて　はは出家ち中〜はちるなる
きとさ衣へ中　野也
一うさうう　女二うそ底そこのりはは都ち弁ふ
のはるぶこは　延中あうはもち也

一ものの山茶　稀ちまゝうち母うくもとはるみだろう
八幡とうんものをとうもの也
一物ひうちう　ちうの中をるくとる中也
一中ふいとも思ひぶ　ありが歳さるも
いとん散〜くハ　中ふの中紙を天ふ又はるう
しくん移へうを也
一大やまをとうう　をふの中まものりうし
もうをもも思ふ　ぬあり極みく物ひまふ
中ふをえまず歳うて也ふくを句　さてうい
まものうは中ふ思ひまるれめとあがうて
て行出都を也　面駒

一女院　女二宮也
一さはりし　さ衣へ女二宮とも也
一わるをとる　ちゐ　くれ緑色　さ衣よあづ
　ぬ　ちゐ　ぬ也
一ものふんとちる　天子ぬ法皇也　独行　ひとりゆへあ
らんとなげめ也　ぬ　ぬ　ぬ

のうきり稲にあらをとやめも
一ら白しきやゝとんぐんまりしげまて
一ゝ数すとうぶにこう　山へあがゝてとゝ云るべし
私勢た今　まその山林をかんてぞくりあり　ゝ
人うとせんあゝ
一衣ゝへやせんさうんぐら　わがうあハ野ゝ
原義が花ぎやさ公遠　催馬系
一ゝうり　上畧ゝ
しそのんも　上畧ゝ　又紅ゝ
一ゝれみのゝ　ゝ
一三秋而　宮漏正長空階雨滴

萬里而郷園何在落葉窓深愁賦張讀朗詠
落葉題下也
一秋宮　清ゝ　一条院ゝ
ゝ　大膳ゝ　又ゝ　一条
院姫ゝ
一ゝ乃ハ長　源氏ゝ　神代ゝの音ハ
ゝの長中にハ清ゝ
一ゝ中ゝ　さ衣乃ハ
一ゝ　ゝ
一ゝ国乃中将　故事ゝ
一大納言　ゝ　三河へ下し

一さてこそハ　和歌ハ　ものなれば　ものごとらんとあり　ちげくを　和歌ハいうでハ
さハ　ものごとらんとうらんとうらんとう

あしとも

一よし法師せよ　はせりあづまへしとも又遊せう

ゆるるべしはあるべきまてやのそたいなれば

一大将の宮井殿おわす　に文字入年可為とも

一ゆうそ野きもと　引いりくみの世界だいとりんを

そ野きもの山ものもしまとうぶ〜ちれ

一度ゆても　源氏乃文れおそ〜まも〜ものとも

一あんり　歌流へさ衰のまいりなてとも

一ほうらい　楊貴妃と合めり。源氏文と貴妃り

歌流を蓬莱あり〜ても

一ほうらいぐ　大文八歌流又一条とりけてあもし

まれりさ衰の流独伯とんりとちるとも

一三文の流りもへさ衰乃はんりりありたお歌流い

り女一文ちれだとも大文ものもも　女三文いれ入道

三文いふ河又法師文八一やうれものもも

一弘法大師八宮おわ三舎暁と行ものもも

一我もさやうり　まいちゝずあり入行へるとも

さ衰の河縁うけて度もさやうに入行へるとも

一ちの川あもも

ちあ中とも

一ちりくり奇　同ん

引右乃川乃ちん奇　我ちまもやトまちぐまて

[illegible]

一かのをれみづ　能登升　[illegible]のうちのべし

一うきさ舟のあるう　狹衣　[illegible]

一乞人命終　菩提　[illegible]

うて天よりまいるる　[illegible]

天とうけるもの

一こぐ石山とぞ　此寺江列石山よみるるとこ

一寺の堂僧修行者

一業王　如乞法人等　法師　[illegible]

是經難得聞　伝受者亦難　如人渴須水

穿鑿於高原　猶見乾燥土　知法水尚遠

漸見濕土泥　変定之知近水

如是諸人等　不聞法花經　業王汝當知

我尒時為現　滿淨光明身　去佛智甚遠

若說法之人　独在空閑處　同一ふく

讀誦此經典　窮窶貧人子

若忘失章句　我尒時為現　清淨光明身

為說令通利